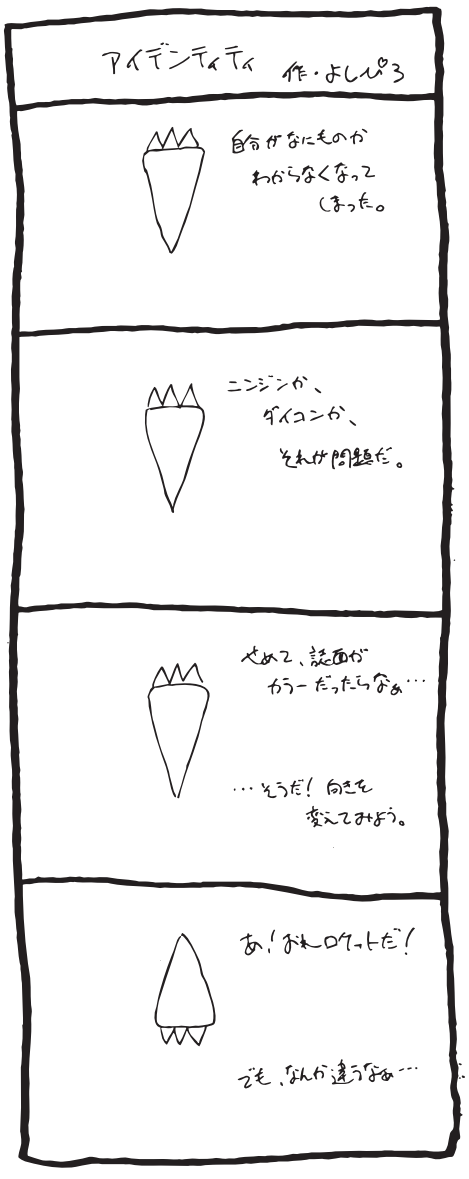


制活ラジオレポート

中崎透×藤井光 真剣対談

２０１２年１月２０日制活ラジオ#０４として、制活編集支援室講師　美術家の中崎透さんと、現在一時的に仙台を拠点として活動されている映像作家の藤井光さんの対談が行われました。

藤井さんがまず問題にしたのは、ある枠組み（この対談の場合、被災を受けた仙台のｓｍｔという施設で行われている震災後にスタートした制活編集支援室という枠組み）の中で話をするという行為が、単にある事実（現在行っている活動の内容）を伝えるものではなく、話す本人の意図せぬ意味（被災地がんばろう的なメッセージ）をまとってしまうという事についてどう捉えるか、ということでした。

表現というのが、コミュニケーションの中にある**コンスタティブ**（事実確認的）な側面と**パフォーマティブ**（行為遂行的）な側面のうちパフォーマティブな部分を構築していく作業だとして、既に社会的にあるパフォーマティブなメッセージが枠組みとして存在してしまっている、その中で被災地復興がんばろう的なポジティブな力や、原発問題のような強いメッセージ性を持った「大きな物語」と、自分が生産する「小さな物語」との距離をどう設定するかということが非常に難しい、と藤井さんは問います。

次いで、例えば、チェルノブイリについての情報がある段階で停止してしまっているから現在そこで起こっている事を我々が知らない、というのと同様に、表現者がある状況を切り取って作品に定着させる行為が作品の受け手に情報の停止をもたらしてしまうかもしれない、しかし定着しなければ情報にアクセスもできないし、作家としての造形責任を果たせない、ということ、そして、自分の撮る映像がある制度の下に確保され守られ残され、未来の人がそこから何かを学べるということが前提となって、アーカイブされる事が目的化していた、ということが問題として提示されました。

現在進行しているプロジェクトにおいて藤井さんの中では、**アーカイブ**ー過去から学ぶ、という考え方からの**アクチュアリティ**（現在性、現在進行形）―何が正しいのかわからない状況の下、自己矛盾を抱えつつも、ポジティブな創造の力だけでなくネガティブな状況を含んだ「ねじれたもの」を生産して現在にいる人に届ける、という考え方への切り替えが起きているとのこと。

藤井さんが現在試みている事が発表されるのはもう少し先かもしれませんが、その時私たちは初めて、今回示された問題に対して藤井さんが考えている事に触れることができるのかもしれません。

様々な興味深い話題の断片が散りばめられた今回の放送、紙面で全てをお伝えする事は到底できませんでした。この記事を読んで少しでも興味を持たれた方はＵｓｔアーカイブを視聴する事をおすすめします。

（http://www.smt.jp/thinkingtable/?p=3129）

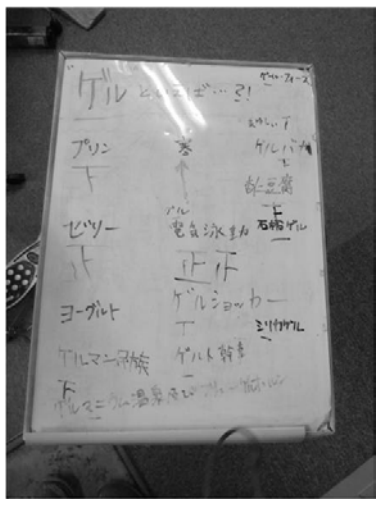
（モキチ）

第三回「ゲル」

明けましておめでとうございます。先日成人式に出席してきたのですが、あれって凄い異様な空間ですよね：：特に女子が密集してるゾーンは目がちかちか。人ごみの中、友人がいないかと探し続けていたら、脳内の顔認識機能がアホになりました。ちなみに私ゲル状の食べ物（ゼリー、プリン等）だけをひたすら食べる会を時々やっております。ポイントはですね：：これがなかなか楽しいのです。

人はなぜゲル状の食べ物を愛するのだろうか。彼らの極度の柔らかさは、我々の警戒心を解き安心感を与え、次々とスプーンを運ばせる。しかし、ぷるぷる、ぷるん、ぷにぷに・・・と、このような単語になってしまうのが切ないところである。

（芋煮長）



T大某サークルの部室に設置していたホワイトボード

わんこゼリー

ラジオを持ってるか？

第3回　レクテナは持っているか？

今回は、電波と電気の新しい関係について、興味深い技術があるので紹介させていただきたい。皆さんは〝レクテナ〟というものをご存知だろうか？

この技術を使えば、空間を行き交う放送、携帯電話、Ｗｉ-Ｆｉ等の環境電波を電気へと変換する事ができるのだ。

もちろん、変換できる電力はまだ微々たるものであるが、将来的にはきっと効率的な電源になる可能性がある。ここで気がついて欲しいのは、電波は決して〝飛ばしたら終わり〟の使い捨て資源では無いという感覚だ。

もしかしたら、テレビ、ラジオ、ノートパソコン、携帯電話は電池が無くても（もしくはコンセントで充電しなくても）使えるようになるかもしれないし、電気自動車だって走り続ける事をができるかもしれない。

また、宇宙空間に太陽光発電所を浮べ、地上まで無線で送電する事だってあり得る話なのである。

私は、このコラムを通して、ラジオを始めとする電波メディアのイメージを多様なものにしたいと考えている。よって、電波塔から垂れ流しになっている〝くだらない情報〟までも有用なものに変えてしまうこの技術は、新しい放送との付き合い方、つまり、とても自由ラジオ的な電波との付き合い方じゃないか！と思っている。つづく、、。

（毛原大樹）

七女想ガイド　＃３

寒い日々が続いておりますが皆さま体調はいかがでしょうか？とはいえここ数年、昔ほど水道が凍ったりってこともないような。温暖化の影響か、はたまた都市化の影響か。そういえばこんな話を小耳にはさみました。ヒートアイランド現象で都市部の気温は上がる一方。夏期が比較的寒冷だった東北の太平洋側では栽培が難しかった作物とかの育成に適した環境ができつつあるとか・・・本当かどうかは定かでありませんが。

ところで皆さんはメディアテークの屋上を見上げると何か白い格子状の構造物が見えるのご存知でしたか？あれなんなんでしょう。いまいち役割はわからないのですが、どうもあれ、「ぶどう棚」に似てると思いません？そうです、あの、庭先で植物を這わせて木陰をつくる、あれです。で、思ったんですよ。都市化による

ヒートアイランド＋ぶどう棚・・ぶどう栽培できるんじゃないか？って。メディアテークはだいたい５０ｍ四方。屋上全体が使えないとしても結構な面積があります。しかも遮るものはないから日もよく当たります。これはぶどうもたわわに実るに違いありません。食べきれないほど収穫できたら、みんなで足踏みでつぶします。搾り取った果汁を樽に詰めて醗酵、熟成させます。そう、ｓｍｔ印のワインの完成です。11月の第三木曜日、ｓｍｔ一階のカフェではｓｍｔ印のワインが開封され、道行く人々に振る舞われるでしょう。寒い夜、温かい季節に思いをはせながらｓｍｔ印のホットワイン・・

妄想は尽きない・・・（モキチ）

前号のクロスワードパズルの解答がぞくぞくと送られてきていますが、いまだ正解者は２名のみ。意外と難しいという声が多く寄せられています。メディアテークや近隣カフェなどで設置していますので、まだ解いていない方はぜひチャレンジしてみてはいかがでしょうか。そして今後の制活新聞は、「耳」特集号や、小説「パクチー白痴」の特集号、そしておなじみの人気連載で構成する号も発行する予定ですので、乞うご期待。それから、制活新聞で絶賛連載中の「耳」が制活新聞を飛び出して、さらには豪華ゲストをお迎えして、「耳ラジオ版」としてｕｓｔ配信されることになりました。２月の最後の週末に行われます。ぜひぜひご視聴くださいませ。（詳細は表面の広告にて）

（編集長）

制活（制活）とは…

市民参加型の長期ワークショッププログラムです。講師となるゲストアーティストは水戸を拠点として活動している中崎透さん。日常を素材にして、ちょっと違った視点が見えてくる作品を作るアーティストです。私たちの日常の中には様々な制作活動や編集行為が潜んでいます。ちょっとした本棚や食器棚の並べ方だったり、心地よい椅子の高さの選び方、有意義な一日を過ごすためのスケジュール作りだったり。そんななんでもないことを、一緒に話して、集めて、歩いて、手を動かしてみたりしませんか？月１ペースでのラジオ放送と、手作りの新聞発行を目標に年間を通した活動をします。

今後の予定

２０１２年2月２５日（土）
１７時から１８時
制活ラジオ公開配信！！！